

第3期（後期）「にいがた福祉リーダー塾」開催報告

主催：新潟県労働者福祉協議会 共催：新潟ろうきん福祉財団

2015年10月2日、3日の二日間、新潟市内にてにいがた福祉リーダー塾の後期が開催されました。7月の前期からあつという間に3か月。今回は、中央労福協の山本副会長をはじめ、労働金庫や総合生協の歴史と役割を専務理事のお二人から学び、得た知識をもとに、後半はグループミーティングに取り組みました。今回、修了証を受け取った受講生には、これからの時代に向けた新しい労働者自主福祉運動を担う人材として期待しています。

第六講義

今までの社会モデルでは立ちゆかなくなってきた現代社会の構造をデータをもとに山本氏から説明いただきました。それを解決していくためには、企業単体の労働運動から脱却し、社会運動にしていかなければならないというメッセージが最後に投げかけられました。



オリエンテーション

前期のアンケートで自ら掲げた「実践したいこと」を3か月間で、どのように取り組んだのかを受講生から発表いただきました。大いに取り組むことができた人、これからに期待したい人、それぞれでしたが、ぜひ後期で学んだことを実践していきましょう。また、山田氏から小論文の書き方について解説がありましたが、提出期日ぎりぎりになってあわてないように、すぐに取り掛かるようにしましょうね！

第七講義（第1部）

世界に例を見ない成功事例といわれる日本の労働金庫。その歴史と根本にある考え方を様々な事例や数値をもとに土田氏よりわかりやすく解説いただきました。



第七講義（第2部）

新潟の総合生協の歴史は、新潟大火、新潟地震、中越地震、と災害によるところが大きく「助け合いの組織」のきっかけとなっています。大変わりやすくまとめられたDVDをととも岡田氏より説明いただきました。



グループミーティング

前期から学んだ知識をもとに、塾生同士で与えられた課題に対して議論しました。様々な議論の方法がある中で今回は、「ブレインストーミング(BS)法」を活用し、全員の意見を発散させ、収束してまとめる作業です。最後は、4分間という時間制限の中での発表。この一連の流れも学びとらえ、これからの実践で活かしていただきたいものです。



修了証交付式

前期、後期の4日間を通して受講された22名に対して、新潟県労福協齋藤理事長より「修了証」が手渡されました。晴れ晴れとした皆さんの顔を見ながら、「連携」「協同」の大切さを実感したと思います。



プログラム／講師

■10月2日(金)
第六講義
「ビジネスユニオリズムからソーシャルユニオリズムへ～働くことを軸とする安心社会の実現に向けて」
山本 幸司氏
(中央労福協副会長)

オリエンテーション
「福祉リーダー塾で研修する課題及び(レポート)小論文の提出と作成のポイント」
山田 太郎
(新潟県労福協専務理事)

第七講義
第1部「労働金庫運動の基本方向と課題」
土田 啓介氏
(新潟県労働金庫専務理事)

第2部「全労済運動の基本方向と課題」
岡田 雅彦氏
(新潟県総合生活協同組合専務理事)

■10月3日(土)
グループミーティング
ファシリテーター
小野塚 勝一
(新潟県労福協 事務局長)
大瀧 幸二
(新潟県労福協 事務局長)
村田 和也
(新潟ろうきん福祉財団 事務局長)
中村 昇
(新潟ろうきん福祉財団 室長)

【編集後記】座学が中心だった前期に比べ、後期はグループワークがあり、学びと「仲間づくり」も深まったのではないのでしょうか。第1期、第2期の塾生とともに、第3期の実践活動に期待しながら、小論文の到着をお待ちしていますね。(富)

小論文：提出締切
2015年11月10日(火)
必着厳守！！